

足助きこり塾

調査団体名	足助きこり塾	団体代表者名	代表 丹羽健司（通称ニワケン）
設立年	2001年12月	対応してくれた人の名前	ニワケンさんと仲間5人
団体URL	http://asukekikori.com/index.html		
活動拠点	豊田市足助町「森トピア」	調査員	大重隆太郎
取材日	2018年2月10日	レポート作成者	大重隆太郎

活動内容

足助きこり塾は、01年12月に発足。足助の篤林家スーさんの広大な森で、「都会の風を森へ、森の風を都会へ」と想うスーさんと、山仕事や山里暮らしの知恵や技術を学び「自分の暮らしは自分でつくりたい」と願う都市住民との交流が始まった。メンバーは30代から70代までの男女約20名。名古屋市を中心に遠くは丹波市、四日市市から通う。活動日は毎月第2土曜日と第4日曜日で、他にイベントを開催することもある。足助香嵐溪から10kmほど入った50[㍉]～名古屋ドーム10個分～のフィールドは「森トピア」と名付けたスーさんが丹精込めた森、そこには、幼稚園、小中高生から大学生、そしてオジサマ、外国人までたくさんの方が訪れる。

最近では女性きこりをめざす「森女」も増え、その支援も行っている。子どもも大人も、森を調べることから、手ノコやチェーンソーで間伐体験したり、その木を学舎の製材機で挽いて、工房で机をつくったり木工したり、薪割したりピザを焼いたり、ターザンロープで「アアアア」したり、ハイジのブランコに乗ったり・・・森を愉しみ森に学べる。その一角に4ヘクタールの「アマチュアの森」があり、そこでスーさんから基本に忠実で安全な伐倒や丁寧な造材から機械による集材までを学んできた。そのままプロになって活躍している仲間も。

09年には地域の人も街の人も学べる「生闘学舎」が東三河高等技術専門校の協力で建った。スーさんが設計し、生徒さんたちが墨付けから刻み建て前まで実習し、メンバーが伐り出し、皮むき、基礎コン打ちから土壁塗りまで素人でもやれることは全部やった。さらに2017年には本格ピザ窯も完成し、森の愉しみが一つ増えた。

「森トピア」の入り口には生闘学舎があり、手入れされたスギ・ヒノキ林の間に山桜やコナラに囲まれた池が点在する雑木林ゾーンとサワギキョウの湿原がひろがる。

キャッチフレーズ

「都会の風を山へ、山の風を都会へ」 そのために、まずは自分たちが実践し、楽しむこと！！

会のモットー（何を大切にしているか）

「次の種を蒔く人になろう」～塾の規約に明記「じっくりと精神と技術を学んだら、卒塾して次の種を蒔く人になろう」
「まっ、いいか」～ややこしい時はこの決め台詞！

設立から現在に至るまで変化したこと

発足の時、オギャーと生まれた「安井森人」君がもう高校生になった。暗かった森に、小屋が3棟、こどもたちがつくった「9歳の家づくり」の家が5棟、ピザ窯2個め、そして生闘学舎1棟が建ち、ターザンロープと、ハイジのブランコ2本ができた。初夏、一本もなかったササユリが2年目に一本咲いた、それが5年目に30本に、そして数え切れなくなった。池の上に1個みつけたモリアオガエルの卵胞が5年目に30、そして数え切れなくなった。

3年目から毎年7月と10月に間伐と森遊び体験に来るようになった「のびっこ安城」の小学生の参加者数が約900人に。スーさんに習ってチェーンソーを使うのが精いっぱいだったメンバーがプロになったり、あちこち森づくり支援に行くようになった。

（故）ゴンさんの入塾と製材機の導入、生闘学舎の建設で、活動が「森づくり」から「木づかい」に大きくシフトした。

連携している団体・専門家・自治体など

矢作川水系森林ボランティア協議会（矢森協）、NPO法人都市と農山村交流スローライフセンター、あすけ里山ユースホステル、おいでんさんそんセンターなど

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例: 小仕事づくり、地域資源の活用など)

○森づくりから木づかいまで

1か所のフィールドで雑木林や湿原の自然観察から人工林でのチェーンソーによる伐木から造材、機械による搬出、製材から木工まで一貫して体験・学習できるフィールドと施設、ノウハウを揃えているところは皆無に近い。その特長を最大限生かしたワークショップを開催してきた。流域の交流と学習の場になりつつある。

現在直面している課題

いつまでたっても安全第一、慣れが一番怖い。「10年経っても10年目の初心者」の言葉を肝に銘じて永年無事故を目指す。

どんな情報・人脈が必要か

最近、木工を通して福祉施設や木工マニアとつながりができた。SNSや「おいでんさんそんセンター」や「耕ライフ」誌などとつながりながらこれまで付き合いの薄かった層ともっとつながりたい。

今後やってみたいこと

若者も、子どもも、女子も、オジイも、誰でも自分の暮らしの少しでも自分でつくれるようにしたい。山菜が採れる、木も伐れる、製材もできる、ピザも焼ける、テーブルも作れる。そんな学びと実践の場にしたい。

【今後の具体的な活動内容】

・「ゴンさん工房」で、伐採、搬出から製材、家具づくりまでの一貫作業が学べる、こだわりのワークショップの開催を目指しています。

チームオリジナルの質問

<質問内容> スーさんの山づくりとは？

<答え> 先祖から引き継いだ人工林を一人でコツコツと、幅員1.6mの作業道を開設しながら搬出間伐を繰り返し、林床の明るい下層植生が豊かな森林になりました。特に団地内に点在する湿原では強度に伐採し、光を入れビオトープ化し、ここを訪れる子供たちの自然学習の場を提供してくださっています。また、近年は雑木林を手入れをしながら薪生産にも取り組んでいます。

チームオリジナルの質問

<質問内容> メンバーは遠方からの通いなんですか？

<答え> 本日の参加者6名の中では、ニワケンさん、ヤスさんが遠く、名古屋市内から60キロ以上を通っています。月2回の定例会は第2土曜日と第4日曜日、「こんな積雪の中、6人も集まるなんてやっぱりヘン！(笑)」と丹羽さん。

写真



取材当日の拠点「生闘学舎」



薪ストーブを囲んでのミーティング(学舎内)



学舎内のゴンさん工房(一輪車の向こうにシートを被ったプレナー、左奥には集塵機)



のびっこ安城の間伐体験



「森っ子、森女、森寿養成講座」イベント集合写真